



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：スイス・ジュネーブでの P5+1 との協議（10月15～16日）（1）

10月15～16日、ジュネーブでイランと P5+1 との協議が実施された。

1. EUのアシュトン上級代表と協議（13日付ファールス通信ほか）

- ・10月14日、ザリーフ外相は、イラン側交渉チームを率いてジュネーブに向かい、同日夕刻、イラン大使公邸での夕食会において、EUのアシュトン上級代表と協議した。
- ・イラン側交渉チームのメンバー：アラグチー外務次官（法律・国際問題担当。前駐日大使）、タフテラヴァーンチー外務次官（欧米担当）、ハミード・バイーディーネジャード外務省国際政治局長（経済・国際専門機関局長）、ダーヴード・モハンマドニヤー外相法律顧問、モハンマド・アミーリー原子力庁代表。
- ・ジュネーブの国連事務局において実施される協議では、ザリーフ外相とアシュトン EU 上級代表により開始された後、アラグチー外務次官が、イラン側交渉チームの上級交渉者として協議を継続する見込み。

2. イラン側の新提案に関する報道（11～12日付イラン国営通信、13日付メフル通信）

- ・イランの新提案は3つの部分からなり、14日のザリーフ外相とアシュトン代表との夕食会で提示される。同提案は時間枠を有し、その中で、最初と最後の段階が明確にされている。中間的段階は交渉の中で、最初の段階が取られた後に明確にされる。
- ・イラン国営通信は、イランと P5+1 は、ジュネーブ協議において、双方にとって交渉の道筋を明確にするための道程を作成するであろうと報じた。

3. インタビューにおけるアラグチー外務次官の発言（13日付ファールス通信）

- ・アラグチー外務次官は、ウラン濃縮の形式、程度、様々なレベルに関して交渉すると述べたが、ウラン物質の国外搬出は我々のレッドラインであるとも言及した。

4. インタビューにおけるアラグチー外務次官の発言概要（13日付メフル通信）

- ・イラン側の新計画は、協議を2つの段階に分けている。第一段階では、協議の展望と目的について議論する。イランの原子力計画に核兵器が存在しないという状況に至れば、P5+1 は勝利したことになり、それは我々の目的でもある。双方が勝者となる共通の目的の定義は可能である。

- ・我々は、現時点では、中間的段階について話すことはできず、最初の段階と最後の段階についてのみ話すことができる。最後のステップでは、イランの核問題が国連安保理から除外され、全てが正常化されていなければならない。
- ・交渉のためのタイム・テーブルに関し、先方の用意の程度により6ヵ月から1年を要すると考えている。我々は、第一段階は6ヵ月を要するステップとなりうると見ており、その後のステップは、それらが含む要素に鑑み、所要時間について決定できる。
- ・(米国側交渉チームにズービン OFAC ディレクターが参加する予定との報道に関し) 彼ら(米国)にイランとの協議において制裁緩和の議論に入る意図があれば、前向きな措置だと言えるよう。
- ・ジュネーブ協議の傍らにおいて、必要であれば米国との協議が行われるだろうが、込み入ったものはないだろう。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799